

【新聞活用学習】小学6年生・社会科

自分の考えを伝え、学び合いができる子どもたちの育成 ～新聞活用を通して～

指定校1年次 長野市立信州新町小学校 両角久仁子

（１）本年度のN I E活動の概要

1年次である本年度は、子どもたちが新聞に親しむ環境作りや、N I E活動を学校生活の中でどのように位置付け、子どもたちにどのような力を育てていくか、6年生を中心に実践を積み重ね、来年度に全校の取り組みとしてつなげていけるようにした。

6年生は、「読む力」「伝え合う力」の向上をねらい、1週間に1回のペースで新聞スクラップや新聞社の学習シートに取り組み、朝の活動に一人1分で要旨と感想を伝え合った。また、教師が各教科の授業に関わる記事を紹介したり、新聞を教材として学習活動に取り入れたりして、新聞を身近な資料として扱ってきた。

公開授業では、「長く続いた戦争と人々の暮らし」の単元で戦争当時の人々の思いに迫り、自分事として捉え、主体的に考える資料として、4人の戦争体験者の記事を選定して扱った。これらの記事は、県内在住の方が実際に体験された事実や戦争に対する思い等、読み手に訴えるものがあり、戦争という出来事と自分との距離がぐっと縮まる資料となった。子どもたちは体験者の生の声を自力で読み進め、読み取ったことや感想を自分の言葉で友に伝える姿が見られた。

来年度は、新聞を活用して「読む」「書く」力を高める学習活動、「主体的な対話」につながる学習活動が全校での取り組みになっていくよう考えていきたい。

（２）本年度のN I E活動の取り組み状況（4月時点）

本校は全校児童児童94人、7学級の小規模校である。指定校になる以前から、全校児童が通る廊下に子ども新聞コーナーが設置され、担当委員会の児童が毎日掲示をしている。多くはないが、足を止めて記事を読む児童もいる。また、高学年は毎年、信濃毎日新聞社の出前講座を依頼し、新聞の書き方や新聞スクラップの仕方等を学んでいる。

（３）N I E活動の狙い（育てたい力）

- 1・2年…新聞を使った造形遊び、工作、文字探し等を通して、新聞に親しむ。
- 3・4年…社会科見学や総合的学習の時間の活動等について新聞にまとめる等、伝えたいことを記事にまとめる。
- 5・6年…新聞を読み、要旨をまとめる。自分の考えを持ち、伝える。
情報をいろいろな視点から捉え、見極めようとする。

（４）全校での取り組み

【新聞コーナー】

- ・毎日の新聞を自由に読めるようにする。
- ・本校児童の活動を取り上げた記事を切り抜き、掲示する。



【各学年の取り組み】

2年生…国語「カタカナ探し」 図工「新聞となかよし（造形遊び）」

3年生…社会「地域探検新聞」

4年生…社会「長野社会見学新聞」＊信毎の出前授業で新聞の書き方を学んだ。

図工「新聞紙を使った工作」

5年生…社会「臨海体験新聞」

信毎の出前授業

6年生…週末の課題「新聞スクラップ、学習シート」＊朝の活動でお互いのスクラップ記事について伝え合う活動を行った。

国語「複合語探し」 外国語「アルファベット探し」 社会「各種の補助教材」



2年生 図工「新聞となかよし」



3年生 社会「地域探検新聞」



5年生 国語「新聞を読もう」



4年生 社会「長野社会見学新聞を作ろう」

（５）公開授業などの活動内容

① 単元名「長く続いた戦争と人々の暮らし」（小学校 6 学年・社会）

② 単元設定の理由

【児童の実態】

6年生になり、社会科は歴史を学ぶようになった。男子を中心に歴史に関心が高い子どもたちは、授業中のつぶやきや発言が多い。また、新聞スクラップを通して、社会的事象に関心を持つ子どもたちが増えてきた。一方で、事実を安易に受け止めて判断する姿もあり、多角的に捉えて考えていく力を高めていく必要を感じている。前単元、日清戦争・日露戦争の学習では、授業の振り返りで「戦争をしない方法はなかったのか」と自分なりに学んだ事実から新たな問いを持った子どもたちもいる。本単元で、日本と世界、過去と現在等の視点から戦争について学ぶことで、多角的に捉えて考える力が高まるようにしたい。

【単元について】 ・曾祖父母世代が体験している戦争を扱う本単元は、当時の人々の思いに迫り、自分事として捉え、平和について主体的に考えることができると思われる。	【手立て】 ・教科書や資料集に加え、地元信州新町や長野県の資料から、子どもたちが自分事と捉えられるような資料を精選する。 ・子どもたちの今と教材としての新聞のどこに接点があるのか研究し、教材化する。
【願う児童の姿】 ・資料から時代背景を読み取り、友と考えを伝え合う姿。 ・戦争を身近なことから捉え直し、平和について主体的に考える姿。 ・5年で学習したメディアリテラシーの意味を考え、情報をいろいろな視点から捉え見極めようとする姿。	

③単元目標

- 日中戦争、我が国にかかわる第二次世界大戦、その頃の国民生活とそれらにかかわる代表的な文化遺産を通して、我が国が戦時体制に移行し、敗戦によって国民が大きな損害を受けたこと、多くの国々に大きな損害を与えたことが分かる。
- 身近な戦争の事実から学習問題を見だし、文化財、地図や年表、新聞等の資料を活用して調べたことをまとめ、わかったことや平和の尊さについて考えたことを表現することができる。

④単元展開

時間	学習活動	学習問題 ・予想される児童の反応	・支援指導【評価】
1	「なぜ原爆ドームが世界遺産なのか」資料をもとに話し合い、学習問題を設定する。	・世界で初めて原子爆弾が使われたから。 ・恐ろしい原爆のことを後世に伝えてくれる。 ・平和のシンボルだから。	・国語教科書の資料「平和のとりでを築く」を想起させながら問いかける。
		15年も続いた戦争は、日本や外国にどのような影響を与えたのだろうか。	戦争が起こった原因・背景等について調べたり考えたりしようとしている。(A-ア)
2	日中戦争の経緯を調べながら、日中戦争の背景を理解する。	なぜ15年にもわたる戦争になったのだろう。 ・生活が立ち行かないほど苦しい状況になってしまったんだ。 ・江戸時代みたいに一揆を起こす。 ・仕事を探す。 ・日本の景気をよくするために、中国の人々を巻き込んだのはひどい。 ・日本は世界から孤立してしまってどうするんだろう。	・日本はどうして戦争を始めたのか、当時の子どもたちの写真から、生活の苦しさを解決するためにどうするか、当時の人々の立場に立って考えさせる。
			不景気の回復や満州の権利や利益を守るため、戦いを各地へ拡大させ、中国の人々に大きな被害を与えたことが分かる。(B-ア、D-ア)
3	中国との戦争が、どのように各地へ広がっていったのか	日本は中国だけでなく、なぜ東南アジアや太平洋まで戦いを広げ、戦力に差のあるアメリカと戦争をしたのだろうか。 ・領土を広げたいから。	・日中戦争と太平洋戦争の広がりや地図から、東南アジアに進出していることに気づかせ、

	か理解する。	・日本は資源がないから資源がほしい。 ・日本は不利だと分かっているながら戦争を拡大して、どうなるか政府は考えなかったのかな。 ・日清戦争や日露戦争みたいに勝つと思ったのかな。 ・戦争により、大きな損害を与えたんだ。だから、今も反日感情という言葉が聞かれるんだな。 ・日本国内の人々は、戦争になりどんな生活をしていたのだろう。	その背景を調べさせる。 ・ビデオ映像で視覚的に捉えられるようにする。 第二次世界大戦を機に、東南アジアを攻撃し、資源を手に入れようとしてアメリカとの対立につながったこと、各地に大きな被害を与えたことが分かる。 (D-ア)
4	戦争中の人々の生活について調べる。	戦争が長引く中、人々はどのような暮らしをしていたのだろう。 ・戦争中は食べ物が多かった。 ・自由に食べ物や服が手に入らなくなったんだ。 ・遊びも絵本も学校の生活も、みんな戦争中心だったんだ。 ・好きなことができない感じ。自由がなさそう。 ・不満はなかったのかな。	・当時の子どもの平均身長から、戦争中の国民の生活を予想させる。 ・戦争の訓練、労働、集団疎開、すごろく、雑誌の表紙等やビデオ映像等の視覚的資料から当時の様子を考えさせる。 戦争中の生活の様子について、写真などの資料をもとに、まとめている。 (A-ア、C-ア)
5	戦争体験者が当時を振り返っている	人々は、どうして 15 年間もこのような暮らしをしなければならなかったのだろう。 ・当時は、勤労奉仕がいやだと思っても自分の思いを自由に言える雰囲気じゃなかったんだ。 ・戦争一色で、大変なことも国のためにするのが当たり前だったんだ。 ・戦争中は、大変だとも思わないくらい、洗脳されている感じ。	・戦争体験者の新聞の記事を読み、どうして過酷な生活をしなかったのかを考えさせる。 政府は人々を戦争に協力させるために戦時体制を強め、くらしの全てが戦争戦争に注がれていたことが分かる。 (C-ア、D-イ)
6	空襲の被害について調べ、国民が受けた被害の大きさを理解する。	日本各地の都市は、空襲によってどのような被害を受けたのだろうか。 ・東京江戸博物館で東京空襲について見たよ。たくさんの方が犠牲になったんだ。 ・長野でも空襲があったんだ。 ・空襲による被害の規模はさまざまだけど、どれも恐ろしい。毎日怖い思いをしていたのだと思う。 ・一般の人が犠牲になる。今の外国も同じだ。	・新聞記事等を使い、長野空襲について、当時の様子を捉えさせる。 ・ビデオ映像等の視覚的資料から当時の様子を考えさせる。 空襲による被害で、兵士以外にも多くの国民が日本各地で犠牲になったことが分かる。 (C-ア、D-イ)
7	沖縄戦や原子爆弾の投下により、多数の犠牲者が出た	15 年続いた戦争はどのようにして終わったのだろう。	・ビデオ映像等の視覚的資料から当時の様子を考えさせる。

	ことで戦争が終結したことを理解する。戦争に対する考えを深める。	・沖縄は戦場になったんだ。 ・広島、長崎は原爆が落とされ、一瞬にして何万人もの命が奪われた。 ・たくさんの犠牲者を出して、他の国にも損害を与えた。 ・犠牲者が拡大する前に止めることはできなかったのかな。	沖縄戦、広島・長崎への原爆の投下により、多くの人々が犠牲になり、8月15日に戦争が終わったことが分かる。(D-イ)
8	15年も続いた戦争は日本や外国にどのような影響を与えたのか、これまでの学習から考え、戦争に対する考えを全体でまとめる。	・日中戦争から終戦までに、たくさんの犠牲者を出して、他の国にも損害を与えた。唯一の被爆国だからこそ、日本は平和の大切さを伝えて行かなければならない。 ・戦争自体は終わっても、今も影響は残っている。人々への戦争の影響はそれだけ大きいんだ。 ・今も外国では戦争が行われている。自分の国を逃れ、難民生活を送る人もたくさんいる。	これまでの学習を振り返り、学んだ事実を挙げながら、戦争に対する自分の考えをまとめるようにする。 15年にわたる戦争について、自分の考えをまとめることができる。(A-イ B-イ)

⑤ 本時の展開

(1) 主眼

生活の全てが戦争中心になっていったことを調べた子どもたちが、制限された不自由な生活を不満も言わずに続けられた理由を考える場面で、戦争体験者の記事から当時の生活の様子や思いに触れることを通して、くらしの全てが戦争に注がれていたことが分かる。

(2) 本時の位置 (全8時間中第5時)

前時…資料を読み取りながら、戦争中の人々の暮らしを調べた。

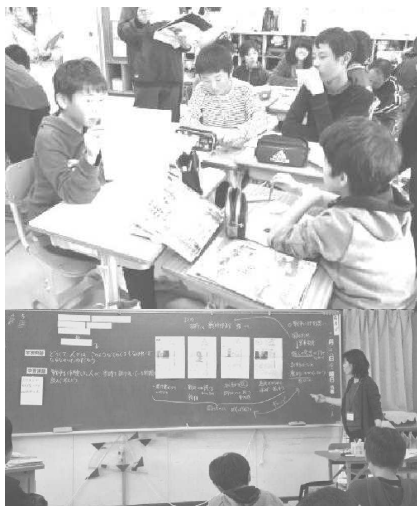
次時…沖縄戦や原爆投下などの資料をもとに調べ、敗戦の経緯を整理する。

(3) 指導上の留意点

- ・資料の新聞の難しい漢字には読み方をつける。
- ・子どもたちにとって難しいと思われる用語については補足資料を用意する。

(4) 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	教師の指導・支援・評価	時間
ね ら い	1 学習問題の確認	・したくない。 ・こんな生活絶対いやだな。	・前時の学習を振り返り、当時の人々のくらしを自分だったらしたいかと投げかけ、学習問題を設定する。 【学習問題】 どうして人々は、15年間もこのようなくらしをしなければならなかったのだろう。	5



記事から読み取ったことを友だちに伝え、共有する。

4人の戦争体験者の記事から子どもたちが読み取ったことをまとめる。

(6) 児童・生徒の反応

- 子どもたちは、真剣に記事を読み進め、体験者の気持ちに迫る箇所にマーカーを引くように伝えたとさっと引いていた。文章を読むことを苦手としていた児童も、「この漢字何て読むの？」と質問することなく読み進めていた。そして、「配給で決まった量しか食べられない。親がないから大変だと思う」と当時の状況を自分事として捉え、考える姿があった。他の児童も、前時で調べた戦争時の生活と記事の内容が重なり、自分に置き換えて考える姿が見られた。
- 記事から人々が苦しい生活をしなければならなかった背景（戦時体制）を読み取ることは難しく、子どもたちの読み取った箇所を教師がまとめる形になった。

(7) 成果と課題

- 6年生は、5年生から新聞スクラップや新聞社の学習シートに取り組んできた。1週間に1回でも新聞記事を読むことで、子どもたちが活字を読むことに慣れてきたと感じる。また、教師がクラス全体に記事を紹介すると、「あ、その記事見た」という反応があったり、授業内容と関連した記事をスクラップして来たり、子どもたちの社会的事象への関心の高まりを感じる。
- 新聞スクラップの感想を伝え合う活動を通して、1分で記事の要旨とその感想を伝えるために、何をどう伝えるか考える力がついてきた。また、公開授業で扱った戦争体験の記事の他、広島の記事、ローマ教皇来日の記事等も扱い、子どもたちは平和な世界のために自分にできることを考えた。本校の重点の一つである「自分から進んで考え、友だちと伝え合い、学んだことを活用する」につながる姿と捉えられる。
- 扱う記事の選定、教材化に時間がかかってしまった。学習のねらい、到達目標をきちんと定めてから資料を選定していくことが課題である。
- 本年度は、スペースの関係で子ども新聞コーナーはこれまでの場所に、N I Eコーナーは6年教室前に設置した。来年度は子ども新聞と同じ場所に新聞コーナーを設置して、他学年の児童も新聞を手にしやすい環境作りや、新聞の保管場所等も検討したい。



[資料：本時で扱った新聞記事]
信濃毎日新聞 2019/11/14 付